一般入試前期Ｂ日程

英語

Ⅰ

■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する問題です。２者のやりとりの流れを見失わないようにしながら，細かい情報を読み取ります。

■採点講評

会話している２人の関係に関する 5 の正答率が低かったです。欧米では上司ともファーストネームで呼び合うなど，日本とは文化的な違いがあります。だからこそ文脈をじっくりと読みこむことが大切です。単語も構文もシンプルですから，固定観念に惑わされない読解力を身に付けましょう。

Ⅱ

■出題のねらい

Eメールの英語を題材としています。初めての相手にメールを送る設定となっています。送信者自身についての情報，メールを送る理由，具体的な提案の内容など，確実に把握する必要があります。

■採点講評

関係詞に関する 8 の正答率が低かったです。先行詞となる“ways”はここでは「方法」という意味で用いられていますから正答は④ですが，③を選んだ人が多かったです。また，日本とイギリスの時差を基にした 10 も苦戦した人が多かったです。イギリスと日本は季節によって８～９時間の時差がありますので，日本の午前９時半はイギリスでは夕方近くということになります。

Ⅲ

■出題のねらい

東日本大震災の影響などで落ち込んでいた海外からの観光客数が2013年の年明け以降は回復基調にあることについて，各観光地の様子などを紹介しながら概説した英文です。英語の基本的読解や理系に必須の数値・グラフ情報の的確な把握だけでなく，情報源の見分け方，一般的な社会情勢を踏まえた類推力など，複合的な理解力を問う問題です。

■採点講評

15 の正答率が低かったです。英語の問いに対して英語の解答を選ぶのは，難しいと感じる人も多いかもしれません。このタイプの問題では，選択肢に使用されている単語を手がかりに，本文の該当個所を丁寧に読みましょう。同じことを別の言い回しで表現することも多いので，単語力・熟語力も必要となります。

Ⅳ

■出題のねらい

最近オープンした新たなコンセプトの文房具カフェの話題です。カフェをオープンしたきっかけや，利用客の意見，カフェの会員特典，利用客数の推移といった情報の流れを掴み，的確に正答を導き出せるかどうかを問う問題です。文房具カフェのサービスを提供する立場と，利用する顧客の立場を想像しながら読むと理解がしやすくなるでしょう。

■採点講評

比較的わかりやすいテーマでしたが，全体的に正答率はあまり高くありませんでした。特に文法的な知識を問う 17 ，19 の正答率が低かったです。動詞としての“line”の用法に慣れていない人も多いでしょうが，英文で説明されている情景をイメージしながら類推してみましょう。また，カフェの会員システムに関する 24 ，25 の正答率も低かったです。英文がシンプルだからこそ，じっくり読んで深く理解しているかどうかがポイントです。

V

■出題のねらい

（1）は基本的な構文力と文法力を問う問題ですが，文脈を考慮しなければ正答には辿りつけません。（2）は英文全体の内容が把握できているかどうかを問う問題です。

■採点講評

「早起き」というわかりやすいテーマだったため，全体的に正答率はよかったです。全体の内容把握の問題（2）もよくできていました。ただ，28の正答率が低かったです。不必要なものは⑤の“that”ですが，④の“how much”を選んだ人が多かったです。“how much”は皆さんがよく知っているフレーズですが，ここでは“how much rest we need”（私達がどれだけの休息を必要とするか）という名詞節を形成しています。